



医療法人 凌雲会

MEDICAL CORPORATION RYOUN GROUP

最期を家族と共に支え合うには
～これまでの看取り支援を振り返って～



医療法人 凌雲会 グループホーム親の家
平川公大

はじめに

平成25年～27年までの間で、グループホーム親の家で4組の看取り支援を行った。その後、ご利用者のご家族にアンケートに答えて頂き、そこから得た学びを報告する。

グループホーム親の家の看取り支援

- ・ 認知症の有無にかかわらず人として
- ・ 馴染みの人・環境の中で
- ・ 「その人らしく」人生の最期を迎える



ご家族と一緒に、ご利用者を支える

- ・ 必要に応じて、医療・訪問看護と連携
- ・ 事前指定書の見直し



開設から10年

グループホーム親の家をご利用になられた方 51名

家族に見守られながら、 親の家で最期を迎えられた方

11名

- 今までの支援に足りないところは？
- この支援をどのように発展していくべきか？



具体的な取り組み

- ① アンケートを作成し、ご家族に答えていただく。

質問内容

- a 故人の最期の迎え方に満足したか？
- b 親の家で看取るにあたって、不安を感じたか？
- c 医療面の対応で気になることはあったか？
- d その他、ご意見、ご要望



② 職員で今後の看取り支援について話し合う。

こんなこと
思っと思ったんだな...

こんなに
たくさん
書いてくれてる...



MEDICAL
CORPORATION
RYOUN GROUP

医療法人 凌雲会 グループホーム親の家

③ 親の家職員・医療スタッフで、 今後の看取り支援について話し合う。

- ・ ご利用者の最期を、ご家族と共に支えていくためには、
どう協力していけばいいか？
- ・ より良い看取り支援のためのチームケアとは？
それぞれが担う役割とは？

(医師)
こうしてみたら
どうだろう...？

(訪問看護師)
こんな事もあり
ましたね

(親の家スタッフ)
なるほど！！
そうしていったら
いいのか～！！



MEDICAL
CORPORATION
RYOUN GROUP

会 グループホーム親の家

活動の成果と評価

アンケート回答内容

a 故人の最期の迎え方に満足したか？

- 満足しています。
- 本人が一番希望していた場所で、最期を迎えられた事が、1番よかったと思う。最期まで人間らしい生活が出来た事が家族にとっても、良かった。
- 医師をはじめ職員の方々には、家庭的環境で良くして頂き、感謝します。家族で出来ない事も家族以上に親身に看てくれ、最期は母の傍らで看取る事が出来、何も言い残す事がない。
- 看取り経験がなかったので、判断できない。



アンケート回答内容2

b 親の家で看取るにあたって、不安を感じたか？

- 最初は不安でしたが、最期は満足。
- 肺がんの最期は、かなり苦しむと聞いていたので、最後の治療行為がどこまで行われるか不安があった。職員の方々へ迷惑をかける事への申し訳ない気持ちもあった。
- 子供を含め家族が親の家で大変お世話になり安心して母を送る事が出来た。不安は感じなかった。
- 看取り経験がないので判断しかねます。

アンケート回答内容3

c 医療面での対応で気になることはあるか？

- 医師とお話して安心でした。
- 最低限の治療行為をお願いしましたが、それで充分であった。
- 体調に何か変わった事がある時は、電話をくれ、病院からすぐ先生が往診があり、ありがたかった。
- 高齢であったため、医療には多くを望むことはできないと考えていたので、大したことはなかった。ただ、半年前から食事の量が激減し、末期には咀嚼能力もほとんどなかったなので、**もう少し食事への対応が出来なかったのか。**



アンケート回答内容4

d その他、ご意見、ご要望

- 職員の方々も忙しい中での対応なので、ぜいたくは言えませんが、仕事の中で、もっとこうすればよいとかこうしなければいけないという事を、いつも念頭において仕事をされていれば、さらに良くなっていくのではないのでしょうか。

アンケートからの学び

評価すべきポイント

「最期まで人間らしい生活が出来て、良かった。」

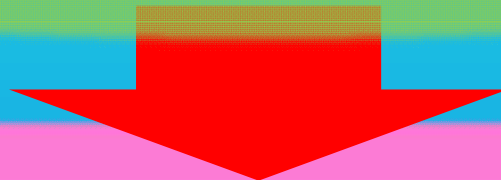
「最期は母の傍らで看取る事が出来、何も言い残す事がない」

親の家の看取り支援を満足していただいたことがわかった。

反省すべき点

「咀嚼能力がなかったのに、
もう少し食事への対応が出来なかったのか」

なぜこのような訴えが出たのか？



親の家で出来る支援・出来ない支援を
伝えていなかった。

普段から、ご家族に対し親の家の支援で出来ること、出来ないことを伝えていく。

反省すべき点2

「迷惑をかける事への申し訳ない気持ち」

なぜそう思うのか？

まだ家族にとって、親の家は
「家族の代わりに世話をしてくれる場所」

かかわり遠のく

後ろめたさ

本音を語れない

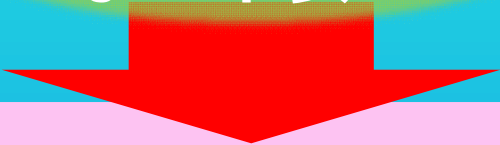
原因

普段の生活からご家族も一緒に支えていると
実感できる、支援を提供できていない。

反省すべき点3

「最後の治療行為がどこまで
行われるか(してくれるか)不安」

なぜ不安？

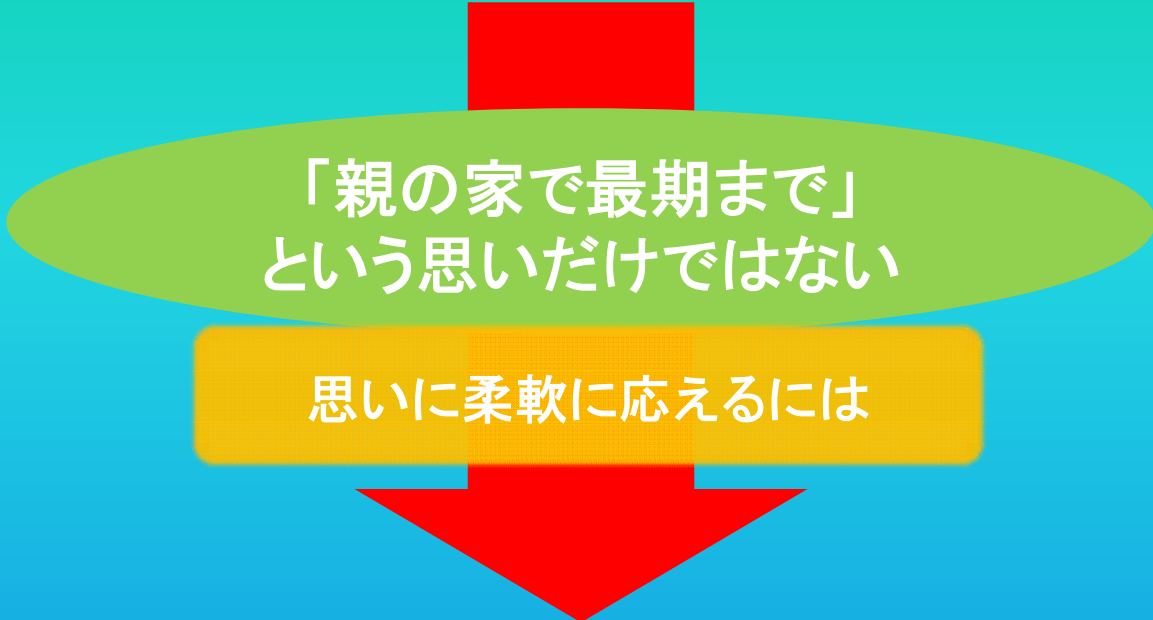


ご利用者の最期に直面した時、
「自分は何をしてあげられるか」わからない。

「今まで何もしないから」「せめても」と
必要以上の医療行為を望んでしまう？

原因

家族が抱える不安や気持ちを
受容する機会がなかった。



「親の家で最期まで」
という思いだけではない

思いに柔軟に応えるには

普段から、ご家族が、医療スタッフとの相談や、事前指定書の見直しができる機会をセッティングする。

ご家族と共に支えることの出来る様に、ご利用者の状態に合った支援の提示や、病院や老人保健施設や養護老人ホーム、そして在宅など、ニーズにあった場所の情報を提供する。

職員の役割・具体的な方法

普段から、ご家族が不安に思っていること、
悩んでいることを言える関係を築く

普段から、ご利用者を共に支えていると実感が持つ
ことができる、ご家族に役割のある支援を心がける

普段から、ご利用者の「人生の最期」を意識し
共に考え続けていく存在として関わっていく

活動の成果と評価 2

● アンケートをもとに、親の家はもとより医療を含むチーム全体で話し合う機会を得、それぞれの専門の立場からの意見を聞き、今後の看取り支援の在り方を再検討することが出来た。

● 職員やその他専門の役割をもう一度把握し合うことで、どのようにすれば、同じ方向を目指して支援をしていくことができるか、具体的な方法を見出すことができた。

考察・まとめ

看取り支援とは、最期を迎えるご利用者・ご家族を支えることだけではない。

普段の生活から・・・

ご家族の不安や本音を遠慮なく吐き出せる機会を多く設ける。

様々な職種や情報との接点を設け、

ご利用者とご家族が望む最期を選択できる力を養う。

ご家族が、ご利用者を支える一員として自覚できる支援を提供する。

より良い最期を迎えるため
人生を「プロデュース」する



ご清聴、ありがとうございました。



MEDICAL
CORPORATION
RYOUN GROUP

医療法人 凌雲会 グループホーム親の家

アンケートをもとに内容进行分析

本人が一番希望していた場所
家族以上に親身に看てくれた

ご利用者が

親の家で大変お世話になった

咀嚼能力がなかったのに、

もう少し食事への対応が出来なかったのか 本音と言えない

家族の代わりに世話してくれる場所

今の支援に家族が参加する余地がない？

迷惑をかける事への親の家の心配のことに限らず...

地域全体をプロデュースする事にもつながっている。

そこで暮らす人が、住み慣れた場所で、馴染みの人の中で最期を迎える。

最後の治療それは特別なことではなく、広く自然な当たり前のことである。

そうなるように演出することも親の家職員の役割なのかもしれない。